

平成26年度 部局長マネジメント方針

上下水道局経営企画室長 もり かつみ
森 克巳



仕事に対する基本姿勢

水道事業は水道水をお使いいただく対価として、また下水道事業は下水管や下水処理場などの下水道施設をお使いいただく対価として、市民の皆様から料金をいただき運営する公営企業です（雨水にかかる費用は税金で負担しています）。

しかしながら、上下水道局が1年間に配水する水道水の量は、平成2年の約7千4百万 m^3 をピークに減少傾向にあり、平成24年度は約6千万 m^3 となっており、毎年平均すると約64万 m^3 （標準的なご家庭が1年間にお使いになる水量（約240 m^3 ）にして2千6百戸分）ずつ減り続けている計算になります。

配水量が減るということは、水資源の保全につながり地球環境面では良いことですが、水道や下水道の施設は、実際にお使いいただく使用水量が減っても、いつでも水をお使いいただける状態にしておくための上下水道施設の運転や、管路の耐震化など災害に強い施設としていくための施設の整備に一定の費用をかけているので、経営面では厳しいことになります。

そのため、どのように効率的な経営を行い、安心、安全な上下水道サービスを安定、持続的にお届けするかという観点で、仕事に取り組んでいます。

平成26年度に取り組む重点課題

1 上下水道の庁舎とサービスを一つにしていきます

- ・災害に強い上下水道庁舎の実現に向けて取り組みます

上下水道局は、現在、近鉄八戸ノ里駅が最寄りの水道庁舎（水道部門）、近鉄荒本駅が最寄りの市役所（下水道部門）でサービスを行っていますが、水道庁舎は老朽化が進んでいる上に耐震性にも問題を抱えています。

この対応として、市役所の西隣への上下水道庁舎建設に向けて取り組み、市民サービスの

向上と災害に強い上下水道の実現などをめざします。

- ・上下水道の業務統合と業務別組織へ転換を検討します

上下水道が一箇所でサービスを提供できるよう、これまでの水道事業、下水道事業という事業別の組織から、経営企画、総務、料金、施設などの業務別組織への転換や、上下水道に共通する業務の共同化など、より効率的なサービスが提供できる組織形態を検討していきます。

2 事業計画の着実な推進で、健やかな上下水道をめざします

- ・計画を着実に推進していきます

上下水道局における中期実施計画（平成23～27年度）の取り組みについては、事務事業の進捗を管理することで、目標の達成度合いを「見える化」し確実に推進していきます。

また、水道施設の耐震化整備の目標達成に向けた施設整備を推進するとともに、収入確保と支出削減にかかる経営目標として掲げる、有収率（※）の0.5%向上と施設整備費の5%削減に引き続き取り組みます。

※有収率：全ての水道水の配水量のうち、料金の対象となる配水量の割合

○中期実施計画の整備目標と進捗状況

項目		H19 末(実績)	H23 末(実績)	H27 末(中期実施計画目標)
配水池	全容量 (m ³)	120,164	120,164	耐震化率 42.18%へ
	耐震化済容量 (m ³) (耐震化率：%)	43,345 (36.1)	45,845 (38.1)	
管路	基幹管路延長 (km)	163.8	164.3	耐震化率 27.54%へ
	耐震済延長 (km) (耐震化率：%)	27.4 (16.8)	29.8 (18.1)	

※基幹管路はφ300mm以上と設定

- ・次期中期実施計画に向けた取り組みを推進します

施設整備の主要施策として取り組んでいる施設の耐震化計画や、災害時の復旧の迅速化等に効果を発揮する配水ブロックシステムへの移行を検討するとともに、経営健全化に向けた料金制度の見直しや、業務指標を活用した事業・経営の分析、評価などを検討していきます。